

国語 第4学年 自分だけの詩集を作ろう

検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 目的をもって詩を読み、選んだ理由が伝わる紹介を付けて詩集を組む。好きという感想を、作品のどの言葉から感じたかに結び付ける。B(1)ア・C(1)カの学習として、詩集の目次案、作品の題名と出典、選んだ理由の紹介文。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ア・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 詩集の目次案、作品の題名と出典、選んだ理由の紹介文を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ア・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4: つまづく児童にはどんな支援をするか。

返し: 既成の詩を無断で複製して配布する、題名の共通点だけで選ぶ。これに対して、図書館の利用可能な詩集を手元で読み、題名・作者・掲載本と選んだ理由を記録する。配布物は自作の紹介を中心にし、引用が必要な場合は授業と権利の条件を教師が確認する。〔知識及び技能〕(3)オとB(1)ア・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ア・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 詩集の目次案、作品の題名と出典、選んだ理由の紹介文は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ア・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ア・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し: 既成の詩を無断で複製して配布する、題名の共通点だけで選ぶ。図書館の利用可能な詩集を手元で読み、題名・作者・掲載本と選んだ理由を記録する。配布物は自作の紹介を中心にし、引用が必要な場合は授業と権利の条件を教師が確認する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ア・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

